

製品の施工説明書に記載されていないリフォーム工事に必要な付帯工事および工事範囲については以下のように定めます

品種	LJSS標準施工	品質チェック施工写真（※完了報告時に必要になります）	
		設置タイプ・部位	撮影箇所
水栓	1、本体交換について ・水栓本体のみを標準とし、止水栓やその他のパーツは交換不要です（劣化や不具合等で交換必要であれば 別途見積り とします） 2、給水接続部について ・フレキ管等のクリップ固定以外で接続する箇所は 必ず新しいパッキンを入れて接続する （交換せずとも一度外して元に戻す作業をした場合も新しいパッキンに交換します） 3、取付するカウンター部の劣化について（キッチン・洗面） ・目視で 劣化していると判断した場合 、ベニア板で補強を行ったうえで取付します ※現調時に判断できている場合は現調報告書に補強費用（材工）を記載する ※工事時に発見し補強が必要となった場合は工務担当者へ連絡（お客様と担当者と調整して追加工事を実施するか判断します）	キッチン	①ソケットー止水栓接続部（クリップ固定箇所） ②カウンター裏 固定部 ③コネクター接続部（ 自動水栓のみ ）
		洗面	①ソケットー止水栓接続部（クリップ） ②カウンター裏 固定部 ③コネクター接続部（ 自動水栓のみ ）
		浴室	①ゴミ・シールテープ残りの除去した吐水口 ②シールテープ巻いた状態 ③本体の水平確認（水平器をのせて確認）
便座	1、付属している止水栓に 必ず交換する ※ただし、劣化などによる配管等の破損が予見される場合を除く 2、付属のホースで長さが足りない場合は 別途長いホースを手配する ※止水栓（右・左）から便座までの距離で判断	シートタイプ リフレッシュ タンカー体型	①給水ホース接続部（クリップ） ②電源コンセント（アース） ③給水管→フレキ管交換部分 ④コネクター接続部（サティスG機能部のみ）
トイレ	1、既設床フランジは 必ず交換（ソケットアダプターCF200Sを必ず手配） ※既設ソケットを床面でカットし撤去→配管残り分撤去→新規フランジ取付 2、既存壁配管が立管につないでいる場合、立管部側は触らない また、逆勾配が発生するようなケースは施工しない（現調時確認） 3、新設するキャビネット本体または扉がコンセントおよび止水栓に干渉する場合、移設してから設置する 4、既存キャビネットより新設するキャビネット上端が低い場合には、クロス補修またはパネル施工などの処理を行う（現調時提案する） 5、カウンターの壁が密着しない（隙間がある）場合はシーリング処理をする 6、既存のCFを剥がして施工する （ただし、経年劣化により剥がすと下地の状態が悪くなるケースではそのまま上貼りする） 7、クロスやCFの提案はLJSS選定品（サンゲツリフォームセクション）から選定する	床排水	①排水接続部への接着剤塗布（フランジ・横引き管） ②給水ホース接続部（クリップ） ③電源コンセント（アース）
		壁排水	①差し込み部分（接続用ゴムパッキン） ②配管勾配（水平器のせて） ③給水ホース接続部（クリップ） ④電源コンセント（アース）
		タンクレス	【サティスGのみ追加】 ①便器と機能部のコネクター接続部
		キャビネット付き （リフォレ）	【リフォレのみ追加】 ①キャビネット内配管
		コーナー手洗い カウンター	
		内装 （CF、クロス）	【CFのみ追加】 ①ドア枠付近の加工処理
洗面化粧台	1、本体・ミラーキャビネット・アッパーキャビネットの下部補強は必ず行う ・取付ねじの高さにあわせて事前に壁面（石膏ボード）の上からコンパネを設置する（厚み9mm以上必要） ・石膏ボードへのビス締めやボードアンカーの仕様は不可 2、カウンター本体と壁の間は必ず シーリングをする ・アッパーキャビネットと壁の間は不要ですが、施主要望または壁との隙間が大きい場合は施工する（お客様要望で施工する場合は別途見積り） 3、止水栓はカウンター本体を交換する場合かならずセットで交換する ・本体水栓に同梱していないので、別途現場に合わせた部材の追加が必要となります ・止水栓から床までの持ち出しソケットは基本そのまま流用する ※ ただし、配管の劣化が著しく破損の恐れがあれば交換しない	カウンター本体 ミラーキャビネット アッパーキャビネット	① 下地施工後の状態 ② コンセント（電源ケーブルの直結をしないこと） ③ 既存跡の有無（新設したキャビネットと壁・床とのとりあい） ④ 止水栓との接続部 ⑤ 排水トラップの差し込み部
レンジフード	1、本体背面の下地補強は必ず実施するについて ・取付ねじの高さにあわせて事前に壁面の上からコンパネを設置する（厚み9mm以上必要。既に木質の下地がある場合は不要です） ・下地の厚みで発生する壁との隙間はコーキングで埋める 2、吊りボルト仕様の場合は別途取付に関わる付帯工事を見積りする ・集合物件において 天井裏のモルタルへの穴あけは不可とします ・天井裏の工事に置いて新設で点検口が必要であれば現調時に施主へ説明をする 3、シーリング処理について ・本体と接している部分すべてに施工（壁・棚・タイルなど） ・幕板は点検口の役目がおり外すのでシーリングはしない 4、幕板の加工について ・“梁のかたちに合わせて直角に切る”などの特殊な加工は不可 ・直線の切断の場合はのこぎりやジグソー等を使い切切断部が残らないようにしてカットし、幕板設置後にその部分をシーリング処理をする（サンダー使用不可） 5、プロペラファンからシロココファンへの交換工事については以下の手順にて実施 ・リフォーム用部材にある“ふさぎ板”を手配して使用する ・ダクトは本体からふさぎ板まで接続する（ウェザーカバー内にそのまま排気） ・ふさぎ板と壁の隙間はアルミテープ貼付けで埋める	シロココファン プロペラファン 同時吸排	①ダクト接続部（アルミテープ） ②コンセントの繋ぎ ③ シーリング処理部
		プロペラ → シロココ	④ふさぎ板周辺の固定状況

製品の施工説明書に記載されていないリフォーム工事に必要な付帯工事および工事範囲については以下のように定めます

品種	LJSS標準施工	品質チェック施工写真（※完了報告時に必要になります）	
		設置タイプ・部位	撮影箇所
コンロ	1、ガス接続工事について ・保有する工事資格で対応できない場合はガス会社を手配して工事となります ・ガス会社へ工事を依頼した場合の費用（見込み）を現調報告書に記載してください ・工事となった場合のガス会社手配は提携業者様にてお願いします ・ガス会社からの請求費用が確定しましたら、工事完了時にLIDEAにてご請求する金額を見込みから実費に訂正してご請求ください ・ガス接続工事のみを施主様に依頼をさせる事は不可とします 2、工事完了時のガス漏れ点検は作業の内容によって以下のように実施します a) ガス管を外して元に戻すだけの作業 → 検査用スプレーにより漏れの無いことを確認する b) 配管の加工・延長などが発生する作業 ・ガス漏れ検査器具にて測定 → 測定結果を工事完了報告時に報告 ・ガス可とう管シールの貼付け（提携業者様の社名等を記入）	標準 （ガス→ガス） オープン一体型 ガス接続工事	① ガス管接続部 ② ガス漏れ検査結果 またはスプレー塗布の状況 ③ オープンとガスコンロのドッキング管接続部（オープンのみ）
IHヒーター	1、ガスコンロからの入れ替えは、ガス栓を止める作業も同時に手配してください 2、新設する場合はブレーカーから専用電源を引いてください（別途見積り） 3、既設IHヒーターとの交換でも、ブレーカー容量や配線の許容量の確認をお願いします	IHヒーター	① コンセント差し込み ② 分電盤 ③ 新規電源配線
食洗器	1、リフォーム用として表面材がパネルタイプの商品にてご提案ください ※LIXILカタログ内で選定する場合は、扉材タイプの商品はご提案を控えてください 2、表面材（本体正面パネル）については、本体標準色（シルバー）にてご提案ください （※他色ご希望の場合、最寄S Rにて選定またはカラーサンプル別送） 3、新設する場合は分電盤から専用電源を引く工事も実施してください ・他のコンセントからの分岐は容量がオーバーする可能性があるため行わない 4、既設のキャビネットを外して設置する場合は、キャビネットが分離して外せるタイプのみ対応します（外せないタイプは工事できません） 5、食洗機を撤去してキャビネットを新設するケースや浅型食洗機の上段に引き出しが設置できるタイプのキャビネットと組み合わせる工事する場合は、既存のキッチンカウンターを一度外して設置する必要があるため別途見積りが必要になります	浅型 深型 自立型 トップオープン入れ替え キャビネットへの交換	① 試運転後の配管接続部 ② コンセント 【新設時のみ】 ③ 専用電源工事部および新規給排水管全体
浴室換気	1、単体換気扇から換気乾燥暖房機への交換手順は以下の通りとします ・電源は単体換気扇のものを流用せず、専用回線を引いてください（容量がオーバーする可能性があります） ・ドーム天井に設置されている場合は、専用の天井パネル（点検口サイズ）を手配しての交換となります ・平天井の場合は既設換気扇が設置されている場所にあわせて対応方法が変わります a) コーナー部に単体換気扇がある場合 浴室中央部にUFD設置用の開口工事及び補強（ネジを止める下地）を実施して本体設置 既設単体換気扇はそのまま外さないで（現調時に施主様には確認します） ※施主様が撤去をご要望の場合は、撤去後開口部はアルミ複合板などを天井に貼り付けする（別途見積り） b) 中央部（浴槽上）に単体換気扇がある場合 既存開口を広げて補強（ネジを止める下地）を実施して本体設置 2、ランドリーパイプはリフォームによる後付けが出来ませんので現調時にご説明をお願いします ※設置済みユニットバスの壁面裏に補強材を入れる事は困難で、下地の無い鋼板パネルにねじ止めでランドリーパイプを設置すると洗濯物などの重量物により落下して怪我をする危険性があります	単体交換 乾燥暖房付き 単体 → 乾燥暖房付き	①ダクトの接続部 ②電源工事部 ※新設の場合は分電盤も ③開口補強部 ④操作パネル部 ⑤浴室内部の養生（工事前）
エコカラット	1、貼付け面にクロスが貼っている場合は、必ず剥がして施工してください（メーカー施工マニュアル参照） 2、天井面および梁の下への施工は不可とします 施工マニュアル上では条件付きで可能ですが、安全面や施工性の観点からお断りしています 3、施工時における養生については以下の通りとします 玄関または加工場所から貼り付け作業場所までは薄手の養生シートで全面養生をする 貼り付け作業場所の養生は、万が一の落下の衝撃に耐えられるように頑丈な養生をする（例、養生毛布＋エコフルシート、薄いベコヤと養生） 4、接着剤塗布後のオープンタイムについては、夏20分 冬30分程度とします ※上記時間内に貼付けできないと接着不良を起こす可能性があるため、一度塗布する面積は1.5㎡程度とします 5、壁の付帯設備周辺の加工については以下のように施工をしてください ・コンセントやスイッチプレートは外して下まで貼りこんで戻す ・インターホン・給湯機用リモコンなど壁から外せないものはその周辺でカットして納める ・エアコン周辺は本体付近まで貼らずにタイルの割り付けに合わせて加工をしないで施工できる範囲までとする ※エアコンの故障などによる交換時にエコカラットによって設置不可になる事を回避する目的です 6、同時に依頼されるケースの多い“壁掛けテレビ用の器具設置”については対応しておりません ※どうしても施工をご要望される場合は弊社担当までご連絡ください 7、余剰部材については工事終了時にお客様へ必要かどうか確認したうえでお渡ししてください ※割れた時の予備品や置いて使うなどの目的もあります		① 加工部分 （コンセントその他周辺） ② クロス剥がした写真 ③ 水掛かり周辺のシリコン施工部